

F-8 女子生徒の将来志向の決定要因——母・娘関係調査の分析(第2報)——
お茶の水女大附高 大町 淑子

目的 母と、小・中・高校の女子児童・生徒の家族関係および家庭教育に関する現状を知るための実態調査を行って、「将来志向における母・娘の意識の一致と不一致」の要因を探り、第1報として「家庭の雰囲気」との関連を昨年報告した。今回は、「娘の職業志向」と、「娘の生活志向」との2側面の関連について報告する。

方法 第1報に同じ

結果 生活志向の類型を、平凡タイプ、有名タイプ、能力タイプ、社会奉仕タイプとすると、平凡タイプは、娘の職業志向がいずれの場合も、また職業志向の母・娘の一致・不一致いずれの場合でも高いが、職業志向の主婦型で特に高く、再就職型、職業型の順に低い。能力タイプは、職業型で高く、再就職型、主婦型と低くなる。有名タイプは僅か、社会奉仕タイプは、母はごく僅か、娘は職業型、再就職型に少しみられるが、年齢が上昇すると漸減する。

職業志向で主婦型、生活志向で平凡タイプを望む傾向と、職業志向で職業型、生活志向で能力タイプを望む傾向は、娘より母の方が強い。母の生活志向タイプは、娘の生活志向より、娘の職業志向の意識に関っているとみられる。

職業志向中の職業型は、小学生(5年)より中学生(2年)で増加するが、生活志向では、この時期に能力タイプの増加が著しい。殊に職業型では、平凡タイプから能力タイプへの移行がみられ、この時期に個人の自立が高まり、家庭外への関心が広がる様子が表れている。